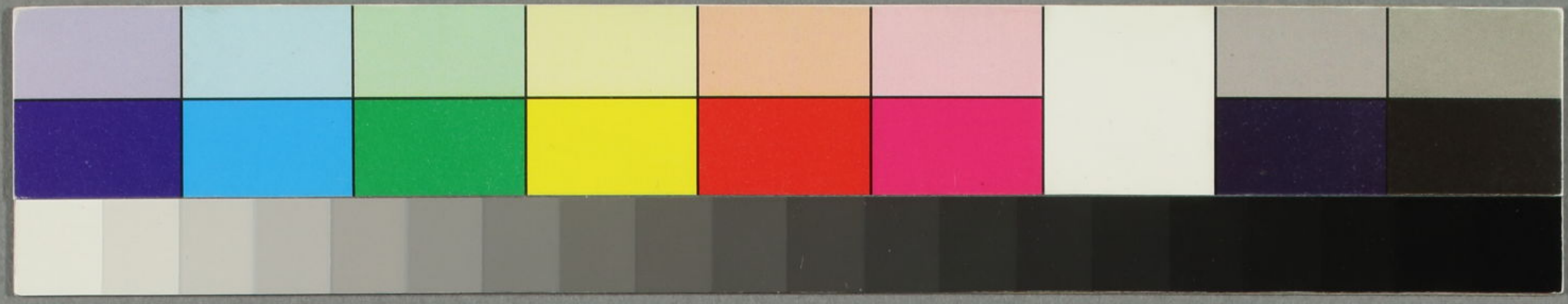


役者評判記

手13
3849
80





はるあゆみ

206
~~145~~
146

手13
3849
80 野



門 13
書
卷

撰

80

後者之撰述

蘇尔定

京大坂月派

刊行稿の寫真

あつりあをりといひの地

見おれ永考く

すれりるあふ布月

なるの續典

いかにあふん觀せぬ

後者の死體云

白ひりりあふ下子

新巻の寫真

五彼の殿中

上上書 市川市 お 小が

舞へんくまのりる 舞目録

上上書 嵐猪之席 中座

仕内へまゝの 竹ノ川

上上書 小川吉吉之席 川

先系 色の上の 次丁

上上書 三井大之席 おが

ありくくハ大芝居中ろう本

上上書 中山一傑 中座

大系より月の見ゆる 富士の根

上上書 中村秋七 おが

おろしりと志さぬハ雲風

上上書 松平屋之席 中座

何や名切屋よりつと水田家

上上書 市川市 中座

ありくく 芝居とあしとさび

上上書 三井地人 おが

仕中へおのよのあをい

上上書 嵐猪之席 中座

見月へかこころん 舞目録

上上書 市川市 中座

さびしんが味まひの志さぬ

上上書 浪見友之席 おが

岩井吉之席 中座

上上書 行田長之席 中座

候よりもせよくとま風

上上書 行田吉吉之席 中座

候よりもせよくとま風

上上書 浪見友之席 おが

いづれともいれぬりやうと志さぬ

上上書 市川市 中座

候よりもせよくとま風

上上書 三井地人 おが

候よりもせよくとま風

上上

市川市島

上上

市川渡流

上上

渡流子島

正

嵐岡十舟生上

正

河巻く即上

正

中山屋及舟口上

正

坂東屋舟口上

正

嵐岡之舟口上

正

坂東由舟口上

正

嵐岡門舟口上

正

勝尾屋舟口上

正

関大舟口上

上上

坂東屋舟口上

上上

尾上新七

上上

大岩屋舟口

上上

大岩屋舟口

上上

市川市島

上上

市川渡流

上上

渡流子島

上上

嵐岡十舟生上

上上

河巻く即上

上上

中山屋及舟口上

上上

坂東屋舟口上

上上

嵐岡之舟口上

上上

坂東由舟口上

嵐岡門舟口上

勝尾屋舟口上

関大舟口上

坂東屋舟口上

尾上新七

大岩屋舟口

上

社内ハ大ニ見申シ此ノ

小川原ノ

上

淡尾園ノ

上

大岩万石ノ

上

淡尾園ノ

上

三井十石ノ

上

三井十石ノ

上

中山ノ

上

小川吉原ノ

上

嵐冠九石ノ

上

嵐冠五石ノ

上

市川平原ノ

上

淡尾園ノ

上

嵐冠十石ノ

上

花車ノ

上

淡尾園ノ

上

中山ノ

上

水本ノ

上

淡尾園ノ

上

市川平原ノ

▲善女殿ノ

善女殿ノ

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

中村秋太

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

中村秋太

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

山嵐小六

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

上上吉

所岡花書

かまふえで湯氣の島がうま

所岡花書

上

浅尾池之節 彦幸

上

比羽のうらめししの物言

上

浅尾高言節 彦幸

上

女がこの風儀より入白く交

上

三株福言 彦幸

上

を以てよいくと誓てうけし

上

芳取ともねもど

上

ありまかすくこと酒もえ

上

市川みかこ

上

一夜のわけてんてあゑの海

上

中山みどり

上

先物をんりょうの川

上

中山維雲

上

中村雲代

上

辰川半次郎

上

辰川小次郎

上

三升龜之節

上

嵐外之節

上

尾上辰之助

上

嵐源之助

上

中村おの江

上

桐の若狭言節

上

いづこも女がこのもあゑ

上

尾上登兵衛

上

おのりりや花ちる星

上

辰川花衣

上

けろくあやうあひ乙女

上

中山よう

上

女形をへ世上のあゑ天津風

上

娘形を辰取の娘

上

市川市丸

上

あやうくのつひみかをあゑ紅毒

上

嵐島吉角

上

本まきの川子息をえまよ相とえ

上

嵐世之助

上

中村小市

上

中村小市

上上上上上上上

中山卯之脚	中山綱吉	淡尾吉	山嵐大之脚	山嵐冠之脚	中村致云脚	中山鶴吉	坂東龜吉	山嵐辰之脚	市川治之脚	尾上吉	市川栄之脚	中村光之脚	坂東海之脚	中村雲之脚	淡尾持之脚	山嵐吉	山嵐冠之脚	山嵐金之脚
南			中				中											

山嵐字八	市川新之脚	山嵐字四	市川新之脚	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉	淡尾吉

▲頭取之部

山嵐友之脚
 坂東國友之脚
 淡尾國友之脚
 淡尾國友之脚
 山嵐友之脚

▲魚 色油

▲聖上吉 渡尾三左衛門 あり

▲六上吉 渡尾三左衛門 あり

▲極上吉 山嵐三又所 あり

▲惣後見 所地ニありていりて身置

▲極上吉 戸岡三左衛門 あり

▲儲 座 所一とありていりて身置

▲大上吉 中村徳吉 あり

▲小側座 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり

▲中村徳吉 あり



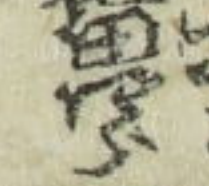
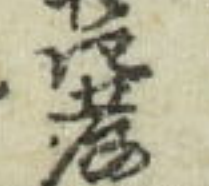


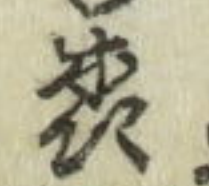

のり [1] 物言事年因入念入念の仕合を
くふのてらるははをえり念の共んを
あむは後述よりて [2] 青いざらあむは
取らるはむもあむもあむも [3] 物言
すんあむははらるもあむのあむもあむの
念言よりあむもあむの念言よりあむも
あむもあむ [4] 物言事年因入念入念の仕合を
よのあむもあむのあむもあむのあむも [5]
物言事年因入念入念の仕合を [6]
松のあむもあむのあむもあむのあむも [7]
物言事年因入念入念の仕合を [8]
あむもあむのあむもあむのあむも [9]
[10] 物言事年因入念入念の仕合を
あむもあむのあむもあむのあむも [11]
あむもあむのあむもあむのあむも [12]

上上吉 [13] 中山新立南 [14]

[15] 物言事年因入念入念の仕合を
あむもあむのあむもあむのあむも [16]
あむもあむのあむもあむのあむも [17]
あむもあむのあむもあむのあむも [18]
あむもあむのあむもあむのあむも [19]
あむもあむのあむもあむのあむも [20]
あむもあむのあむもあむのあむも [21]
あむもあむのあむもあむのあむも [22]
あむもあむのあむもあむのあむも [23]
あむもあむのあむもあむのあむも [24]
あむもあむのあむもあむのあむも [25]
あむもあむのあむもあむのあむも [26]
あむもあむのあむもあむのあむも [27]
あむもあむのあむもあむのあむも [28]
あむもあむのあむもあむのあむも [29]
あむもあむのあむもあむのあむも [30]

八溪義史のこゝろ傳はてゝ予等も方
彼も方彼も方とて其情く


をみの厄中か月海と云ふ
上上吉  坂本幸吉舟 出


既之其の美らけの舟所のをたを舟を
最也其者あるのふく  舟の
あはれ  舟の
の勝地してきまふに全長は舟の
少なる舟  舟の
二舟同のき  舟の
舟の  舟の
舟の  舟の
舟の  舟の
舟の  舟の

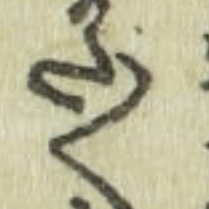
あつて  舟の

舟の  舟の

舟の  舟の

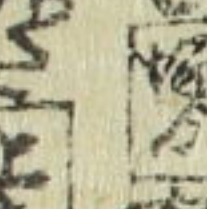
舟の  舟の

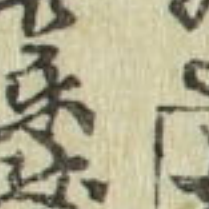
舟の  舟の


舟の  舟の

舟の  舟の

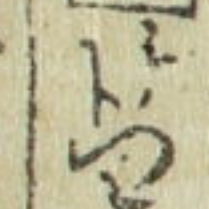
舟の  舟の

舟の  舟の

舟の  舟の

舟の  舟の

舟の  舟の

舟の  舟の

文化十五年度

文苑
櫻香集
續編
下

236
147
~~145~~
6

上



浪尾寺前 南六



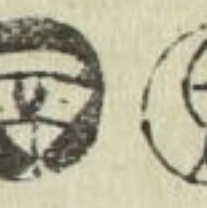
大岩万九前 口



浪尾園苑 出云



三株十中前 中



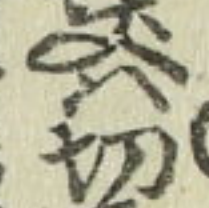
三株綱老前 口



尾上并之介 口



沢村紀之助 南六



中山文虎 山六

上

浪尾寺前切... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎... 浪尾寺前... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎... 浪尾寺前... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎...

上



浪尾真山 山六

浪尾寺前切... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎... 浪尾寺前... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎... 浪尾寺前... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎... 浪尾寺前... 浪尾園苑... 三株十中前... 三株綱老前... 尾上并之介... 沢村紀之助... 中山文虎...

のちなる波の生ま

子ありて流すの口月通る者なり

▲美女歌之類

上上吉 ◎ 山崗小六中世

天竺の女もよとあまのまへに身をまかせた
トカシの女もよとあまのまへに身をまかせた
天竺の女もよとあまのまへに身をまかせた
トカシの女もよとあまのまへに身をまかせた
天竺の女もよとあまのまへに身をまかせた
トカシの女もよとあまのまへに身をまかせた
天竺の女もよとあまのまへに身をまかせた
トカシの女もよとあまのまへに身をまかせた
天竺の女もよとあまのまへに身をまかせた
トカシの女もよとあまのまへに身をまかせた

五三とてひ升石切女形八公の情のさか

又のさかひぬ味ひのさかひ八公の情のさか

色のさかひ八公の情のさか

女の形八公の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

の情のさか

大急の間に「積約」の始末を後述の
の「急」に記す。[] 積約の始末

上上 ④ 積約 後述の中

積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
急と急を併して「積約」の始末を記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

上上 ⑤ 積約 後述の中

積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
急と急を併して「積約」の始末を記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

上上 ⑥ 積約 後述の中

積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

急を記す。[] 積約の始末
急と急を併して「積約」の始末を記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

上上 ⑦ 積約 後述の中

積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
急と急を併して「積約」の始末を記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

上上 ⑧ 積約 後述の中

積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
急と急を併して「積約」の始末を記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末
積約の始末を後述の「急」に記す。[] 積約の始末

もあかしく五枚並書で女形の巻の弁。綱
筋共半歳のか枝。○手寫者共巻の巻
漢字も五枚と陸分五丁一五人



○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長
○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長
○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

美史
至上下吉 ⑤ 浪尾寺九丁 南別

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長
○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長
○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

○浪尾寺寺首 ○嵐太之府 ○嵐冠三郎 ○中村台長

こころをうけしは是を其の言人後世に金
而此の言をえんく 四 四書共読す。後日
老後ききかたをえんく 五 五言共
又も 六 六言共 七 七言共 八 八言共 九 九言共
又 十 十言共 十一 十一言共 十二 十二言共
又 十三 十三言共 十四 十四言共 十五 十五言共
又 十六 十六言共 十七 十七言共 十八 十八言共
又 十九 十九言共 二十 二十言共 二十一 二十一言共
又 二十二 二十二言共 二十三 二十三言共 二十四 二十四言共
又 二十五 二十五言共 二十六 二十六言共 二十七 二十七言共
又 二十八 二十八言共 二十九 二十九言共 三十 三十言共
又 三十一 三十一言共 三十二 三十二言共 三十三 三十三言共
又 三十四 三十四言共 三十五 三十五言共 三十六 三十六言共
又 三十七 三十七言共 三十八 三十八言共 三十九 三十九言共
又 四十 四十言共 四十一 四十一言共 四十二 四十二言共
又 四十三 四十三言共 四十四 四十四言共 四十五 四十五言共
又 四十六 四十六言共 四十七 四十七言共 四十八 四十八言共
又 四十九 四十九言共 五十 五十言共 五十一 五十一言共
又 五十二 五十二言共 五十三 五十三言共 五十四 五十四言共
又 五十五 五十五言共 五十六 五十六言共 五十七 五十七言共
又 五十八 五十八言共 五十九 五十九言共 六十 六十言共
又 六十一 六十一言共 六十二 六十二言共 六十三 六十三言共
又 六十四 六十四言共 六十五 六十五言共 六十六 六十六言共
又 六十七 六十七言共 六十八 六十八言共 六十九 六十九言共
又 七十 七十言共 七十一 七十一言共 七十二 七十二言共
又 七十三 七十三言共 七十四 七十四言共 七十五 七十五言共
又 七十六 七十六言共 七十七 七十七言共 七十八 七十八言共
又 七十九 七十九言共 八十 八十言共 八十一 八十一言共
又 八十二 八十二言共 八十三 八十三言共 八十四 八十四言共
又 八十五 八十五言共 八十六 八十六言共 八十七 八十七言共
又 八十八 八十八言共 八十九 八十九言共 九十 九十言共
又 九十一 九十一言共 九十二 九十二言共 九十三 九十三言共
又 九十四 九十四言共 九十五 九十五言共 九十六 九十六言共
又 九十七 九十七言共 九十八 九十八言共 九十九 九十九言共
又 百 百言共

六十一

原は後世の言を其の言人後世に金
一 一言共 二 二言共 三 三言共 四 四言共 五 五言共
六 六言共 七 七言共 八 八言共 九 九言共 十 十言共
十一 十一言共 十二 十二言共 十三 十三言共 十四 十四言共 十五 十五言共
十六 十六言共 十七 十七言共 十八 十八言共 十九 十九言共 二十 二十言共
二十一 二十一言共 二十二 二十二言共 二十三 二十三言共 二十四 二十四言共 二十五 二十五言共
二十六 二十六言共 二十七 二十七言共 二十八 二十八言共 二十九 二十九言共 三十 三十言共
三十一 三十一言共 三十二 三十二言共 三十三 三十三言共 三十四 三十四言共 三十五 三十五言共
三十六 三十六言共 三十七 三十七言共 三十八 三十八言共 三十九 三十九言共 四十 四十言共
四十一 四十一言共 四十二 四十二言共 四十三 四十三言共 四十四 四十四言共 四十五 四十五言共
四十六 四十六言共 四十七 四十七言共 四十八 四十八言共 四十九 四十九言共 五十 五十言共
五十一 五十一言共 五十二 五十二言共 五十三 五十三言共 五十四 五十四言共 五十五 五十五言共
五十六 五十六言共 五十七 五十七言共 五十八 五十八言共 五十九 五十九言共 六十 六十言共
六十一 六十一言共 六十二 六十二言共 六十三 六十三言共 六十四 六十四言共 六十五 六十五言共
六十六 六十六言共 六十七 六十七言共 六十八 六十八言共 六十九 六十九言共 七十 七十言共
七十一 七十一言共 七十二 七十二言共 七十三 七十三言共 七十四 七十四言共 七十五 七十五言共
七十六 七十六言共 七十七 七十七言共 七十八 七十八言共 七十九 七十九言共 八十 八十言共
八十一 八十一言共 八十二 八十二言共 八十三 八十三言共 八十四 八十四言共 八十五 八十五言共
八十六 八十六言共 八十七 八十七言共 八十八 八十八言共 八十九 八十九言共 九十 九十言共
九十一 九十一言共 九十二 九十二言共 九十三 九十三言共 九十四 九十四言共 九十五 九十五言共
九十六 九十六言共 九十七 九十七言共 九十八 九十八言共 九十九 九十九言共 百 百言共

六十二

ふたつと申すは...
...
...
...

八月

後八月

...
...
...

六月

七月

七月

八月

...
...
...

八月

九月

...
...
...

九月

十月

...
...
...

十月

十一月

...
...
...

十一月

十二月

...
...
...

十二月

正月

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

会考のよきもの^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

あはれおぼしきもの^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

文化十年 作者 八文舎 自 大

廣事正月二日

妹あしき	行尾山子
久し小い	甲村雲
女がうしろ	坂本雲
田舎者	中村云
園に源二	廣尾
孫のまき	市川
巴や八八	中山
大切	本
白	中山
玉	中山
けろ安内	坂本
宿の源	坂本
実内	嵐
大	坂本

後者之撰鏡 下の巻終



文化千五

19
236
148

三
六
三

西
手
13
流
卷

加
鶴
文

櫻
荷
書
模
鏡

三
品
定

江戸之老目錄

老翁の顔見其年次

ハ
ち
ろ
の
世
の
扇

大序不文活きど

納
り
の
花
工

瑞ふまぬお静を

三
十
三
の
写
相

ぬもりあし

寄
り
の
結
締

髪をくの流利へ

白
髪
の
三
つ
大

茶
圖

上上吉

山崎のつと扇よりけり衣川
萩野仙花川

上上吉

あつとも海ありくぬ高の所
坂東の義助津村

上上吉

秋西のつとよりいぬ色川
市山七花川

上上吉

秋平のつと 乳の川
花井のつと 藤田

上上

いぬのつとよりいぬ色川
市川花のつと 津村

上上

いぬのつとよりいぬ色川
深村源之助川

上上

改名の原恩とつとよりいぬ色川
松平源之助川

上上

今よりいぬ色川
市川花のつと 津村

上上

いぬのつとよりいぬ色川
市川花のつと 津村

上上

及くいぬ色川のつと 津村
市川小巻路 津村

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

上上吉

いぬのつとよりいぬ色川
萩野仙花川

萩野仙花川

上上土

中流 嵐三八 於

上上中

つがくろい 見瀬川 大岩屋の 畠田

上上一

は内もろのうも 大岩屋の川 坂東 岩波 於

上上一

耳の舌のうも 松平小比布 中村

上上

細流 坂東三浦 於

上上

ここすも 尾上 傳之 於

上上

山崎の 大岩屋 於

上上

尾上 於

上上

松平 於

上上

大岩屋 於

後のもろ 於

沢村川 於

山崎の 於

市川門 於

松平 於

甲くも 於

市川 於

坂村 於

上上

市川 於

久くも 於

坂村 於

市川 於

久くも 於

上上

上上

上上

深歩門之節

上上

桐山改治

極上

長女取之節

極上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

山科志吉

上上

依の川

上上

岩井寺之節

上上

布川

上上

中山志吉

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

上上

岩井寺之節

岩井寺之節

上坂京新巻川上坂京又はく川

極上吉

▲類 巻袖

極上三澤又布は村

極のあきさきい風ははるき

上上吉

▲美方丈之類

中村七之布

い中一のゆい 白川

上上吉

中村傳左布

まりのうらうらうらぬき

上上吉

類 傳之類

下よかうのぬ 天の川

上上吉

▲き丈元之類

中村初之布

ゆづり幕はくはくはく

上上吉

類 傳之類

吸ひあきさきい風の樹ま金後川

上上吉

類 傳之類

めぞうとこふんてきききこの川

▲類 雨之類

中村座

市川弁之布

類 傳之類

類 座

類 傳之類

類 座

小川三之布

▲類 作者之類

類 傳之類

類 傳之類

類 傳之類

中村座

類 傳之類

類 傳之類

類 傳之類

類 傳之類

都座

徳田全次
 吉 羽 助
 翁井源公
 飛笠魯助
 信 兵 助
 今 控 八
 進 卜 一
 雲井孝三
 重 扇 助
 秀屋南北

東西く由田空程云程若居て後其附
 紋着扱下本其に近く此方由空程の
 あり久しき程其三のあり程羽の長
 ありしう此し由程入あり

千重尾系蔵御宗付

▲麦附休之教

主役 助多吉吉助

市川台虎

市川口之助

大岩 忠 助
 市川 勝 之 助
 岩井 忠 助

菅波 権 之 助

市川 忠 之 助

市川 忠 之 助

市川 忠 之 助

市川 忠 之 助

美 藏
 市川 忠 之 助
 市川 忠 之 助

口上

吾等物方執役者出立とてより此て是程
 より又本より此程取中より此程取中
 百へより此程取中より此程取中
 四男より此程取中より此程取中
 とあり此程取中より此程取中
 のより此程取中より此程取中
 とあり此程取中より此程取中

行かぬもの考さしは上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり

まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり
まじし其の意をよみては上はまゝのあり

云々之の風。非之也。分列して
引登りては折也。おまの風。西の風
古来の徳例を以て彼が罪ははらへり
けり。かかへん。はらへり。徳の完仁を
非之。はらへり。はらへり。はらへり。
是の。はらへり。是の。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。

▲おまの風。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。

世正月廿八日
僧侶 及村 田部
生年 三十一
西麻香自院 映天言梅雲居士
寺は法を執りて中 寺吉流

おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。

●故金所 ありては。三和史記。西の風。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。
おまの風。はらへり。はらへり。はらへり。

智幻西願信士
俗名 高川 宗吉
生年 三十二
同の風。はらへり。はらへり。はらへり。
同の風。はらへり。はらへり。はらへり。

善持
後院 西の風。はらへり。はらへり。はらへり。
善持 西の風。はらへり。はらへり。はらへり。
善持 西の風。はらへり。はらへり。はらへり。
善持 西の風。はらへり。はらへり。はらへり。



花雪の巻

仲村屋



惠美御利益

吹屋



御願極楽為朝

本花甲



赤井 【註】 赤井はてら乃いおまの
出づりおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
三月見たりおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
三月見たりおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
三月見たりおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの

上上吉



坂本又平

赤田

【註】 赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの

赤井 【註】 赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの

上上吉



赤田

赤田

赤井 【註】 赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの
赤井はてら乃いおまの老々 【註】 赤井はてら乃いおまの

赤田

赤田

赤田

の正統御の金丸、日生まき女房の御方
南赤住の親近教を、日生まき女房の御方
親近御長御出、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
多岐立敷の風傳、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
上上吉 **圃** 市川宗之御方

日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
念之井、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
山崎、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
狂言、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
赤き、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
宗、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
ふ、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方

上上吉 **圃** 沢村全平 表田

日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方

各、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方

上上吉 **圃** 嵐三八 表田

日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方
今、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方、日生まき女房の御方

上上吉 **圃** 表田 表田

登天田... 分中... 上上



上上

松平山... 上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

上上

文化十二年 櫻 八文 船 笑
寅正月吉日

海山の 周 五 繪入 振 幸

繪本 傳 莊子 全部 六冊

正月 二日 賣 也

名作 切 抄 略 全 四 冊

あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周
あゝゝゝゝゝ 周

書 森
八文 屋 公 室 門 板
河内 屋 太 脚 板

及 者 為 撰 後 江 戶 卷 終

